

株式市場新聞

www.marketpress.jp

1 第363号

日経平均株価

3万2606円84銭

▼384円24銭(前日比)

TOPIX

2359.02

▼24.36(前日比)

2023

9/11

月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



AI関連は高初値期待

秋のIPOシーズンはじまる！

秋の新規公開（IPO）シーズンは12日のライズ・コンサルティング・グループ（9168）を皮切りにスタートする。既にTOPIXが1990年7月以来約33年ぶりの高値を更新、日経平均もこれに追隨する動きになり、グローバルCore指数やマザーズ指数も底打ちから上昇に転じた。株式市場全般が好環境下にあるなかで新規公開企業へも資金が流入し易い環境にあり、時流に乗る材料を有する企業は初値形成後のセカンダリーでも注目できそうだ。

セカンダリーでも注目

なる2万8330円高値を

秋のIPOは10-Tech Group(9333)まで15銘柄が予定されている。因みに



AI関連は高初値期待

のIPOではソシオネクスト(6526)が公開価格3650円に対して3835円で初値が形成され、今年6月21日にその7倍超と

形成している。その余韻が残る今年の秋のIPOでも大化けする銘柄が登場する可能性もありそうだ。公開株数が多く高初値は期待できないが、話題性からは9月20日のインテグラル(5842)が注目されよう。プライベートエクイティファンド初の上場となる同社は過去にスカイマーク(9204)やダイレクトマ

日経平均の日足チャート



ケテイング(7354)などの投資でも話題となった。上場後に新たな投資が發生すれば物色される可能性が高い。一方、高初値が期待されるのが9月22日のファーストアカウンテイング(5

588)と27日のAVILEN(5591)。ファーストアカウンテイングは会計分野に特化したAIソリューション事業(経理AI事業)を展開、AVILENはAIソフトウェアとビルドアッププラットフォームの提供をはじめとするAIソリューション事業を展開している。高初値確率が高いAI関連であり、セカンダリーでも賑わうことになろう。

ヨシムラFが続急伸

北海道ホタテ業者子会社化

30日、ヨシムラ・フード・ホールディングス（2884）が続急伸。ワイエス

フーズ（北海道茅部郡森町）を子会社化する」と発表した。今後も海外を中心に需要拡大が見込まれる北海道産ホタテを調達する権利、加工する技術と生産設備、輸出に必要な品質認証を獲得、マルキチとの協業やシンガポールの中心とした海外販路やネットワークを組み合わせ、さ

らなる業績拡大を図るとしている。

芝浦買戻しで最高値

芝浦メカトロニクス（6590）が大幅続伸、上場来高値を更新した。株式の

売出価格が2万3115円で決定、前日終値に対するディスカウント率は3%とながら、半導体株高の流れのなか目先のショートカバーが優勢になった。受渡期日は9月5日で、東芝（6502）やニューフレアテクノロジーらが売出を実施する。

とした株式併合後の株数に応じてコースを選択できる。

Abalance悲観売り

Abalance（3856）がストップ安。30日の取引終了後、「2023年6月期概況及び今後の見通しについて」を発表した。Q&Aの項目で決算発表の延期に係る経緯などについて、IRセミナー（6月30日開催）における発言などについて回答が記載されているが、この内容などについて悲観売りを浴びたようだ。

プラザHDはS高で新値

31日、プラザホールディングス（7502）がストップ高まで買われ、年初来高値を更新した。株主優待制度を拡充すると発表したことを好感した買いを集めた。グランピング宿泊体験・アパレル商品を加え、既存のカタログ

グギフトも拡充、9月30日を基準日として5株を1株に併合する予定で、10月1日を効力発生日

松井証券

今こそ始めるデイトレード

松井証券の一日信用取引

手数料0円 金利・貸株料0~1.8%

取引
コスト

プレミアム
空売り

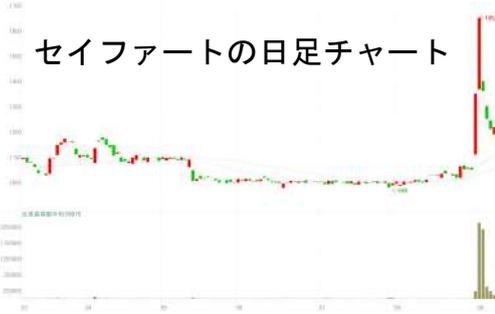
独自
サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら

marketpress.jpのバナーをクリック

セイファートの日足チャート



セイファートがストップ高

美容師向け求人サイトで新機能

自分の求める条件が叶う美容室を探しやすくなるように人材マッチングと検索機能を向上させた新機能をリリースしたと発表された。

31日、セイファート(9月13日)がストップ高。美容師向け求人情報サイトの「reel」で、29日に美容師ユーザーが

発表した。美容師キャラクター診断の結果を基に適性サロンの検索を活用、自身のキャラクターにフィットする美容室にフォーカスして働き先を探すことができる。

ポエック大幅上方修正

週末1日、ポエック(9264)がストップ高。集計中の23年8月期の連結業績について、売上高を62億7600万円から69億8000万円(前の期比20・2%増)、最終利益を1億4100万円から2億3000万円(前の期比300万円の赤字)へ大幅に上方修正した。廃棄物処理とリサイクル技術への投資が増加するなか環境関連事業の受注が底上げされ生産性が向上、養殖設備用冷却装置の製造利益の増加なども寄与した。

アインHD役員逮捕

アインホールディングス(9627)が急落。グループ会社のアインフーマ

HCSHDはTOB

HCSホールディングス(4200)がストップ高。エルティール・エス(6560)が同社株にTOBを実施すると発表しており、買い付け価格1800円にサヤ寄せして水準を切り上げた。買い付け期間は9月1日から10月16日まで。非公開化が目的で、TOB完了後は上場廃止になる予定。

LINE証券

LINEではじめる
株投資

本格

20代投資家が選ぶ「スマホ利用で使いやすい」
ネット証券No.1

スマホで株取引するなら、
LINE証券！

投資をはじめよう!

\LINE証券口座開設でもらえる/
最高3株分の購入代金

0円

要エントリー

自己資金

marketpress.jp のバナー広告をクリック！

LINE証券

株投資

30,856

前日比+456円 +1.50% 評価損益+1,234円
購入可能額4,975円>

保有銘柄

伊藤園は急伸し新値

1Q 67%営業増益で高進捗

週明け4日、伊藤園(2593)が急伸、年初来高値を更新した。24年4月期第1四半期の連結決算は、営業利益9億9200万円(前年同期比66.5%増)と大幅増益で着地、第2四半期累計計画の125億円(同10.3%増)に対する進捗率は79.9%に達し、収益上振れを期待され



た。国内では値上げが浸透、米国では高収益の主力の緑茶飲料「おくいお茶」が好調に推移した。

アクアライン出尽し

アクアライン(6173)が急落。東電福島第1原発処理水の海洋放出が始まったことで急騰していたが、汚染水への

水産物への影響が皆無なうえ、中国政府の日本産水産物全面輸入禁止と関連し、日本政府がWTOへの提訴を検討していることと伝わったことにより材料出尽くしによる処分売りが嵩んだ。

星光PMCはTOB

星光PMC(4963)がストップ高。傘下のインビジュアルホールディングスによる公開買付(TOB)を実施すると発

OKI低コスト半導体

5日、OKI(6703)がストップ高まで買われ年初来高値を更新した。信越化学工業(4063)と窒化ガリウムを使ったパワー半導体の素材を低コストでつくる技術を開発したと伝わったこ

JFE稀薄化と需給悪

JFEホールディングス(5411)とが買い手掛かり。従来の製法と比べ製造コストは10分の1以下にすることができ、量産できれば急速充電器向けなど用途が広がり普及の弾みになり、早期実用化と収益貢献が期待された。

幻のSQ値

先週の東京株式市場は日経平均が反落する一方でTOPIXは続伸とマチマチの展開でした。日経平均は8月28日から9月6日まで8連騰し一時3万3282円まで上昇しましたが、メジャーSQということ週末は続落。日経平均のSQ値は3万2921円39銭で着地し、わずか96銭ではありますが「幻のSQ値」となっていました。

一目均衡表では6日に三役好転しましたが、週末には再度雲の中に押し戻されて否定。5日移動平均線を下回ったことで8連騰の過熱を冷ます調整局面に入ったようです。

下値サポートラインは75日移動平均線の走る3万2465円や25日移動平均線の走る3万2280円近辺と考えます。また、日柄面では今週13日(水)前後に変化日が訪れるため、週半ば以降の押し目局面では引き付けて仕込む場面ではないかと思われま

日々勇太朗

転ばぬ先のテクニカル

表した。買付価格は1070円で、TOB成立後に上場廃止となる。

気自動車(EV)普及をにらんだ鋼材の開発など大規模な脱炭素関連投資に振り向けるとしている。

が急反落。日本経済新聞が「JFEは公募増資と新株予約権付社債(転換社債(CB))を組み合わせた2000億円規模の資金調達する方針を固めた」と報じたことを受け、株式価値の希薄化と需給悪化を懸念した売りが膨らんだ。温暖化ガス排出量の少ない電炉への転換や、電

公募増資は1000億に1200億円規模になる見通しで、発行株の1割弱に相当、公募増資はJFEH公募増資後では初めて、CB発行は19年ぶりとされる。この日午後12時前、新株発行と自己株処分、CB発行を正式に発表したが、大引けにかけては買戻しに

サイバセキ事業拡大期待

サイバセキ ユリテイクラウド(4493)が急反発。アマゾンウェブサービスが認定する「AWSパートナーパス」のソフトウェア部門で、最上位ステージ「DIFFERENTIATED」に昇格したと発表した。マーケティング開発プラットフォームでのビジネス展開が加速するとしており、今後の事業拡大が期待された。



企業観察

ハリマ化成G(4410)

早期収益再建に布石打つ

ハリマ化成グループ(4410)は原材料価格高騰と世界的な景気後退に伴うローター事業の粘着剤用樹脂需要減退により、24年3月期は期初計画を下方修正、営業損益14億円の赤字転落を見込んだ。ただ、早期収益再建に向けすでに布石を打っている。

独ヘルケル社から買収したはんた材料事業は高耐久鉛フリーソルダペーストでハイスペックが求められる自動車分野の需要を開拓室温で長期保管できるソルダペーストでカーボンニュートラルに対応しており、中国でも生産能力を増強して拡販に乗り出した。

はんだや香料を拡販、設備更新も

香料原料は加古川製造所では国内初のミルセン製造設備を稼働、再生可能資源としてロジンへの関心が高まるなか、石油代替製品への開発も進めている。

また、港湾物流の混乱が続くオセアニアでは生産設備を更新、今後の需要回復に備えており、業績不振の要因になったローター事業についても「資源価格高騰を見越してユーザーが積み上げた在庫も底をつき始め、受注が戻りつつある(会社側)」としている。さらに、中国製紙薬品事業合弁会社への出資比率引き上げで、持分法利益が増えることになる。

三菱重工業(7011)が大幅に5日続伸、97年2月以来の高値水準まで上昇した。

三菱重工業(7011)が大幅に5日続伸、97年2月以来の高値水準まで上昇した。

丹青社(9743)が急反発。24年1月期の第2四半期累計予想について、連結売上高で370億円から388億円(前年同期比22.8%増)、営業利益で10億円から13億円(同2倍)へ上方修正した。新型コロナウイルスによる制限緩で商業その他施設の需要が回復した。

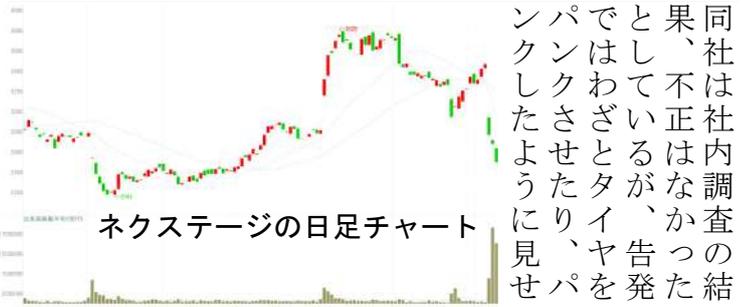
丹青社は上方修正

ネクステージがS安

不正報道受け悲観売り浴びる

びた。複数の現役員、元社員が告発している。報道によると、不正報道を受け悲観売りを浴びた。複数の現役員、元社員が告発している。

6日、ネクステージ(3186)がストップ安。「ビッグモーター」と同様の不正の疑いがある」と文春オンラインが報じたことと悲観売りを浴びた。複数の現役員、元社員が告発している。



同社は社内調査の結果、不正はなかったとしているが、告発ではわざとタイヤをパンクさせたように見せかけているという。

ヒートハイストはストップ高(6433)がストップ高。日刊工業新聞で「自動化を支える/ヒートハイスト 新棟稼働で直動機器のシェア拡大」として紹介されたことが材料視された。

ITbook事業採択 ITbookホルディングス(1447)が急反発。グループのみらい(広島市)が総務省の「テレワークを活用した地域課題解決事例の創出に関する実証事業」に採択されたと発表した。熊本市を実証地域としてテレワークの普及促進と新しい働き方の創出を目指す。専門分野に精通したサポーターがテレワークを希望する労働者に適切なアドバイス

7日、アドバンテクト(6857)や村田製作所(6981)を筆頭にアップルに絡むハイテク株が急落した。「中国当局は米アップルのスマートフォン(6857)や村田製作所(6981)の機微な部門での使用禁止対象を拡大し、政府系機関や国有企業にも適用することを計画している」とBloombergが報じたことが嫌気された。アップルにとつて最大の海外市場であり、ニューヨーク市場でアップル株が急落しており、部品などを納入する日本企業への影響から投げ売りが出た。

アップル関連が急落 中国使用禁止対象拡大報道

昇した。国産大型ロケット「H2A」の打ち上げ成功が支援材料になったが、国内外証券による投資判断や目標株価の引上げが相次ぎ、防衛受注が1兆円まで拡大するとの予想も。リーディングストックとして市場の関心はさらに高まっており、5ヶタ相場志向を鮮明にしてきた。

とサポートを提供、地域雇用の創生やデジタルプラットフォームの構築、市内企業の人材不足対策などにも取り組む。

銘柄を絞って狙う

料の無料化を9月30日から決めたことで個人

8月末の時点で日経平均では3万3000円手前で頭打ちになると見ていたが、想定以上に強く7日の午前中には3万3282円まで上昇する場面がありました。その後は

株式市場に流れこむ可能性もあり、日経平均の上値追いは続くでしょう。短期的な調整があっても強い動きが予想され、調整場面があれば銘柄を絞って狙うことが大事です。

目先は戻り待ちの売りが予想されますので、一部、利益確定する作戦も有効ではないかと思っています。

相場は原油価格が高値を更新したことで市況関連銘柄を刺激しました。今後、金利の上昇も視野に入ってくる

これでどや!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



I証券S Bが手数

拾う作戦です。面は少しづつ

S B Gはアーム上場待ち

英国の子会社アーム社が14日に米国で上場が決まりました。時価評価額が600億ドルとみられていましたが、500億ドル前後の可能性もあることが明らかになって売られました。しかし、出資企業が当初の予想通り有力な半導体関連会社がある

高野恭壽(たかのやすひさ)氏 株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家へ。講演会のほかラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに出演。「株式投資30カ条」など著書も。

公式ホームページ <https://marketpress.jp/kabu-takano/>

Bガレージ急伸し新値

1Q5割営業増益を好感

週末8日、ビューティガレージ(3180)が急伸。年初来高値を更新した。24年4月期の第1四半期決算を発表、連結売上高で71億7600万円(前年同期比18.1%増)、営業利益で3億8400万円(同49.9%増)となった。

ツクルバ赤字縮小 9ツクルバ(2378)が急伸。業績予想について、営業損益で2億2000万円、2億2000万円の赤字から1億3200万円の赤字(前の期7億7300万円の赤字)へ修正した。流通総額(GMV)が堅調に拡大している。



週末8日、ビューティガレージ(3180)が急伸。年初来高値を更新した。24年4月期の第1四半期決算を発表、連結売上高で71億7600万円(前年同期比18.1%増)、営業利益で3億8400万円(同49.9%増)となった。

ホンダ逆行高で高値

トヨタ自動車(72略を評価する動き。

ホンダ(7267)が逆行高で年初来高値を更新した。北米向けEVの充電ポートに「North American Charging Standard(NACS)北米充電規格)を採用することを決め、NACSを展開するTeslaと合意したと発表したことを受けて北米でのEV戦略を評価する動き。

アルプラン36%営業減益 アールプランナー(2983)が大幅続落。24年1月期第2四半期累計の連結決算は、営業利益2億5100万円(前年同期比36.4%減)と大幅減益で着地した。広告宣伝費を抑制したこと

03)が公式X(旧ツイッター)に動画を投稿、豊田章夫会長がホンダ製のSUV「ヴェゼル」で登場する内容だったことも話題を集めた。

チャート から読む 騰落銘柄

日本山村硝子(5210)



8月29日に2120円の最高値を付けた後に調整していたが、25日線の1800円接近で下げ止まる。JR貨物との高機能野菜の新工場稼働効果も期待され、PBR 0.5倍からもここからの下値不安低い。

大和ハウス(1925)



1Q好決算発表を機に上値追い続く。大勢上昇トレンドのなか5日線を下値支持に過熱感なく水準切り上げ、18年に付けた上場来高値4594円を射程に。収益上振れ期待強く、好取組も株価押し上げへ。

アクアライン(6173)



9月1日に1583円まで急伸後に東証の信用規制で急落。急騰前は8月23日に432円の安値を付けていたことから、規制継続なら700円前半まで下値不安残る状況で、再度の500円割れの可能性も。

総医研HD(2385)



前期4割超の経常減益に続き、今期も6割減益を予想。ユーザーの在庫調整長期化で中国向け化粧品の回復にメドが立たず下振れも。決算発表翌日の安値222円を下回れば底割れ状態で一段安を警戒。



★
 個人投資家が
 増えることを願
 うばかりだ。
 今回の無料化で
 環境になった。
 が株投資をし易
 い環境になった。
 可能な個人投資
 家が増えること
 を願うばかりだ。



無料化は信じられない事だろう。ただ、手数料が無料になるからと言って株式売買で利益を得ることが容易になるのかと言えればそれは疑問だ。結局のところ投資家個々に実力があれば多少、手数料を取られても利益出すことができるだろうから。筆者が対面取引を行っていた時代は証券会社で有能な営業マンが数多く存在した。チャートなど独自の手法で銘柄を発掘して筆者も勉強をさせて貰ったが、証券会社の社員が派遣になったり、銀行からの転属になったりしてマニュアル営業しか出来ない営業マンが増えてしまった。必然的にネット証券に移行したが、ミニ株による少額投資も可能になり個人が株投資をし易い環境になった。今回の無料化で個人投資家が增えることを願うばかりだ。

星野三太郎の 株街往来

～取引手数料の無料化～

SBI証券
 券と楽天証券が国内株式
 の取引手数料の無料化を
 発表した。国内株式の現
 物取引と信用取引のそれ
 ぞれの手数料が無料とな
 るもので、SBI証券は
 9月30日から、楽天証
 券は10月1日から導入
 するとう。

対面取引で高い手数料
 で取引を行っていた高齢
 投資家にとつて手数料の
 無料化は信じられない事
 だろう。ただ、手数料が
 無料になるからと言って
 株式売買で利益を得るこ
 とが容易になるのかと言
 えればそれは疑問だ。結
 局のところ投資家個々に
 実力があれば多少、手
 数料を取られても利益出
 すことができるだろうか
 ら。筆者が対面取引を行
 っていた時代は証券会社
 で有能な営業マンが数多
 く存在した。チャートな
 ど独自の手法で銘柄を発
 掘して筆者も勉強をさせ
 てもらったが、証券会社
 の社員が派遣になったり
 銀行からの転属になった
 りしてマニュアル営業し
 かない営業マンが増えて
 しまった。必然的にネッ
 ト証券に移行したが、ミ
 ニ株による少額投資も可
 能になり個人が株投資を
 し易い環境になった。今
 回の無料化で個人投資家
 が増えることを願うば
 かりだ。



New product

モスフード 「月見フォカッチャ」期間限定
 卵殻カルシウムを配合で旨みコクも



月見フォカッチャ

「月見フォカッチャ」と「バーベキューフォカッチャ」を期間限定で発売する。

今年「月見フォカッチャ」に使用する半熟風たまごをリニューアルし、通常は捨てられてしまう「卵殻」から作られた卵殻カルシウムを配合している。さらに黄身ソースも旨みやコクをアップ。ビタミンEも含まれている半熟風たまごは、おいしさだけでなく、栄養価にもこだわっている。「バーベキューフォカッチャ」は歯ごたえのあるソーセージにリジナルのバーベキューソースをかけている。

モスフードサービス(8153)は9月13日～11月中旬まで、全国のモスバーガー店舗(一部店舗除く)で、「月見フォカッチャ」と「バーベキューフォカッチャ」を期間限定で発売する。

アサヒグループホールディングス 「ニッカ弘前 生シードル」
 スパークリングワインをリニューアル



ニッカ弘前 生シードル

アサヒグループホールディングス(2502)グループのアサヒビールは、リンゴを使って醸造したスパークリングワイン「ニッカ シードル」を「ニッカ弘前 生シードル」にリニューアルし、9月上旬から順次販売を開始する。「ニッカ弘前 生シードル」はニッカウヰスキー弘前工場が誕生した1960年から製造しているリンゴのスパークリングワイン。国産リンゴを100%使用し、生のリンゴを丸ごと搾った果汁を、熱を加えず発酵させることで、リンゴのみずみずしい味わいが楽しめる。今回のリニューアルでは、弘前の自然の恵みやリンゴ本来のやさしい味わいによるあたたかみを感じられるブランドへ刷新。自然豊かな「弘前」にある工場で醸造していること、「生シードル」であることの訴求を強化している。

潮流

構造変化を外国人が買う

懸念材料解消なら更なる上値

marKet/bAnk

8月第5週（28日～1日）の先物の投資部門別株式売買動向（日経平均

先物、TOPIX先物、ミニ日経平均先物、ミニTOPIX先物の合計）によると、海外投資家（外国人）は6287億円買い越した。

現物株（東証・名証の合計）との合算では9680億円買い越しだった。反対に個人は1兆1681億円の売り越しになっている。先物だけを見ると8月第4週（21～25日）も968億円の買い越しとなり、2週間の合計で7255億円の買い越しとなる。

日経平均は8月18日に3万1275円で底を打ち、9月7日には一時、3万3322円の高値を付けた。日経平均を2047円も上昇させたのは外国人の先物買いが要因であることが分かる。8月のジャクソンホール会議で、パウエルFRB議長は必要に応じて追加利上げの用意があり、インフレ率が目標の2%に向かって低下するまで景気抑制的な金利水準を据え置くとしている。

また、中国不動産業界問題が表面化したのは2021年9月、大手不動産開発企業「恒大集団」の債務危機だった。今は中国不動産最大手の碧桂園控股（カントリー・ガーデン・ホールディングス）の債務不履行（デフォルト）が懸念されている。

中国では年内にも社債がデフォルトしかねない不動産企業

は65社もあるという。不動産企業は必死に債務返済に励むが、借金が大き過ぎて追いつかない。この様な不透明感が強まる中でも9月に入って、日本株式市場は主要企業の値動きを示す東証株価指数（TOPIX）がバブル期後の最高値（2337.36）を上回り、1990年7月以来、約33年ぶりの高値を更新した。

多くの企業が営業レバレッジ（固定費の削減による売上高増加での増益効果）を高めて利益を伸ばし、自社株買いや増配といった株主還元を進めており、企業の構造的変化が起っている。また、海外でインフレは懸念材料だが、日本にとっては長期デフレからインフレに向うことを市場は好評価している。

失われた30年から脱却しようとしている日本の変化に、海外投資家（外国人）が注目し、日本の株を買っている。9月21日のFOMCで政策金利の引き上げ終了がはっきりと意識されれば、大きな懸念材料が解消され、日本株は更に上値を切り上げていくだろう。

潮流銘柄は双日（2768）、オリックス（8591）、横河ブリッジホールディングス（5911）。

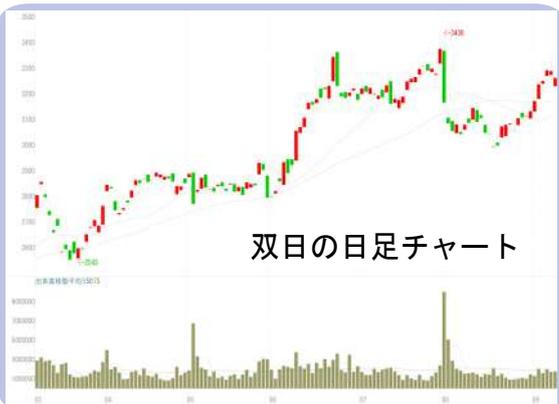


岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年にNHK番組「経済最前線」で紹介された。直近では2022年1月の夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

失われた30年から脱却へ

双日の日足チャート





敬腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

中国 リスク強まる

今週は上値の重い展開か？

先週の日経平均は前週末比約103円安となり、3週間ぶりに週足陰線となった。

前週より上昇が続き8連騰したものの、木曜日、金曜日で600円強下落し、前回の戻り相場で付けた高値（3万3488円）を抜くことはできなかつた。日経平均では戻り高値は抜けていないが、TOPIXベースでは高値を更新しており、日本買いが止まっている

ようではなさそうだ。

だが、ここにかけて中国の経済リスクが相場の重しとなっている。人民元が16年ぶりの元安水準となつているが政府も容認している。矢継ぎ早に3カ月で2回政策金利を引き下げたが、不動産危機や輸出額の減少は避けられておらず、個人消費の低迷によりコロナ後の景気回復が鈍い。景気のパロメーターとして捉えられていた16歳から24歳の若者の失業率は6月には21.3%と過去最高になつており景気減速感



中国の経済リスクが相場の重し

人民元の日足チャート



均線（3万2962円）を割り込み、新値三本足も7本陽線後陰転した。更に一目均衡表の雲の上限（3万2770円）や転換線（3万2754

は大変強い。相場の上昇トレンドが強い時は悪いニュースでも直ぐに織り込むが、相場のピーク感が強い時にはちよつとしたニュースにも強く反応する。今回も中国の人民元安容認や政府職員の iPhone 使用禁止のニュースを嫌気して相場が下がったとされている。アノマリー的には「9月相場は弱い」である。色んな「9月危機説」が相場を攪乱する可能性があるが、中国発は注意が必要である。

今週は上値の重い展開を想定する。9月SQ値は3万2921円39銭だが、金曜日にはこの値を上回る事は無く「幻のSQ値」となっている。また、窓を開けて5日移動平均線（3万2962円）を割り込み、新値三本足も7本陽線後陰転した。更に一目均衡表の雲の上限（3万2770円）や転換線（3万2754

日経225先物の日足チャート



円）を引け値で割り込み調整局面入りを示唆している。下値メドとしては75日移動平均線（3万2464円）が挙げられるが、割り込むと25日移動平均線（3万2274円）を試しに行く可能性もある。その下は雲の下限（3万2165円）が岩となろう。25日移動平均線は8月18日の安値（3万1275円）を起点とする下値ラインも位置するため重要な水準といえよう。一方、上値は5日移動平均線、窓埋め（3万2986円35銭）が挙げられる。今週は3万2100円から3万3100円を想定する。（ハチロク）

